

東北大学大学院情報科学研究科

(1)	シンポジウム開催支援経費 学際的研究プロジェクト支援経費	実績報告書
タイトル	第5回テラフロップワークショップ	
(2) 主催者	情報科学研究科・情報シナジー機構・シュツツツガルト大学高性能計算センター	
期 日	2006年11月20日～11月21日(2日間)	
会 場	情報科学研究科棟2階大講義室	
出席者数(講師・パネリスト等を除く)		104名
講師・パネリスト 等の氏名・勤務先 等	姫野龍太郎(理化学研究所 開発グループディレクター),坪井 誠司(海洋研究開発機構 プログラムディレクター),中橋 和博(東北大学大学院工学研究科 教授),岩崎 俊樹(東 北大学大学院理学研究科 教授),山本 悟(東北大学大学院情報科学研究科 教授),佐 藤 弘康(東北大学大学院工学研究科 助手),Simon Greaves(東北大学電気通信研究 所),Sunil Tiyyagura(HLRS, シュツツツガルト大学),Frederik Svensson(NEC Europe),Stefan Borowski(NEC Europe),Uwe Kuster(HLRS,シュツツツガルト大学),Ralf Messing(シュツツツガルト大学),Takashi hagiwara (NEC), Kenji Hasegawa (NEC), Michael Resch (HLRS), 小林広明(情報シナジー機構)	
(3) 目 的	本ワークショップは、国際的に活躍する計算科学の研究者、およびスーパーコンピュータ設 計者を招いて、高性能・高効率大規模科学計算に関する最新の研究成果の情報交換を行うと ともに、今後のスーパーコンピュータ設計のあり方を議論することを目的としている。	
(4) 内 容	本ワークショップは16の招待講演から構成され、電磁解析、地質解析、流体、気象などの 分野で国際的に活躍する研究者によるベクトル型スーパーコンピュータを活用した最新の 研究成果の発表を行った。また、2010年にペタフロップスを超える実効性能を達成させる 我が国の次世代スーパーコンピュータ研究開発プロジェクトの現状と今後の展開に関する 最新情報の紹介や、スーパーコンピュータ開発メーカの技術者による1チップで100Gflop/s を超える性能を有する超高性能ベクトルプロセッサの要素技術、および高バンド幅のデータ 転送技術に関する講演を行った。	
(5) 情報科学研究科 にとっての意 義・貢献度	2日間のワークショップでは、120名の参加者(学内参加者 79名(情報科学54名 その他25名)、学外41名)があり、活発な討論が行われ、情報科学研究科から高性能 計算に関する国際的な情報発信ができたと考えている。また、多くの情報科学研究科の 学生の参加があり、学生に対しても当該分野の最新の研究成果に触れる良い機会を与え た。	

注(1)「シンポジウム開催支援経費」「学際的研究プロジェクト支援経費」のどちらかを削除してください。

(2) 当学術企画実施の代表者もしくは責任者及び協力者名を全員記載してください。

(3) 当学術企画を実施した目的を簡潔に記載してください。

(4) 実施された当学術企画の内容を簡潔に記載してください。

(5) 大学院情報科学研究科に対する当学術企画の意義や貢献度を簡潔に記載してください。